

5:6 私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。

5:7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。

5:8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

5:9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

5:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。

5:11 そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。

生きた信仰は患難のときに力を発揮します。この箇所の少し前にあるように、

「患難が忍耐を生み出し、

5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。

5:5 この希望は失望に終わることがありません。」とあるとおりです。

それは信仰による救いをいただいた私たちクリスチャンに共通しているのです。

その生きた信仰がどこから来るかという、それは神様が罪びとをも愛して下さるという安心感にほかなりません。もしも正しい者だけが希望を持つのだとするなら、誰にも不可能なことです。必ず挫折

してまいります。

しかし、主は「まだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださった」と言われます。罪人であったときでさえ、愛をいただいているのですから、今も主に愛されていないはずがありません。

主の解決を信じましょう。どんな失望の中であっても、主にお任せして安心しましょう。その安心が続くためにも従いましょう。主を愛して従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

